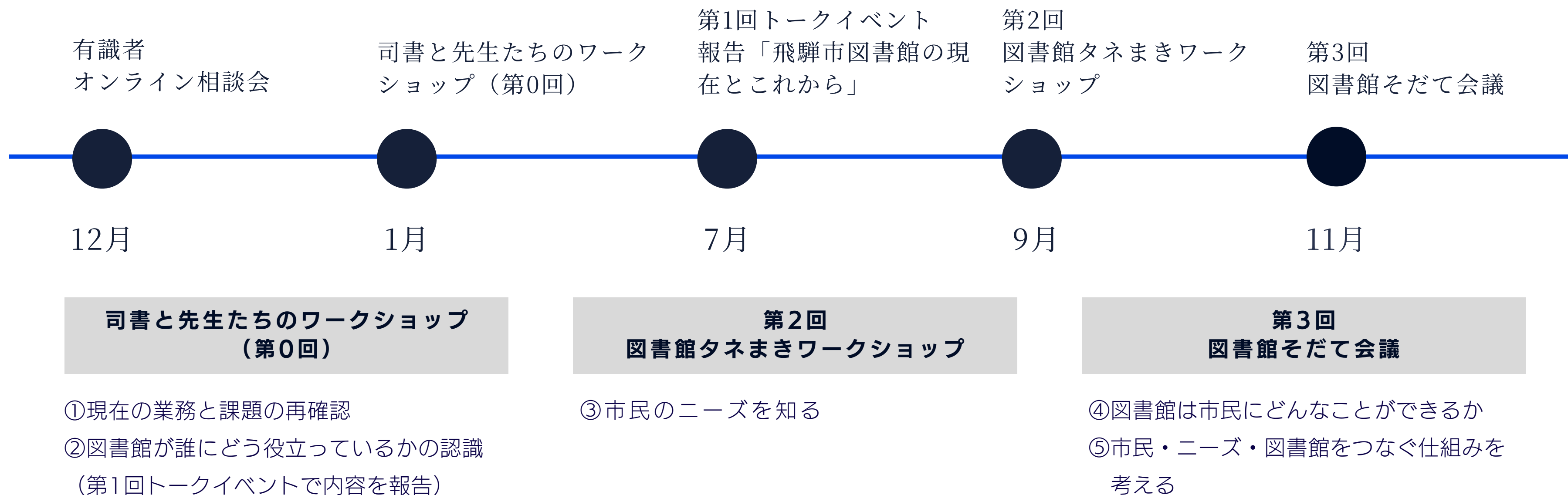
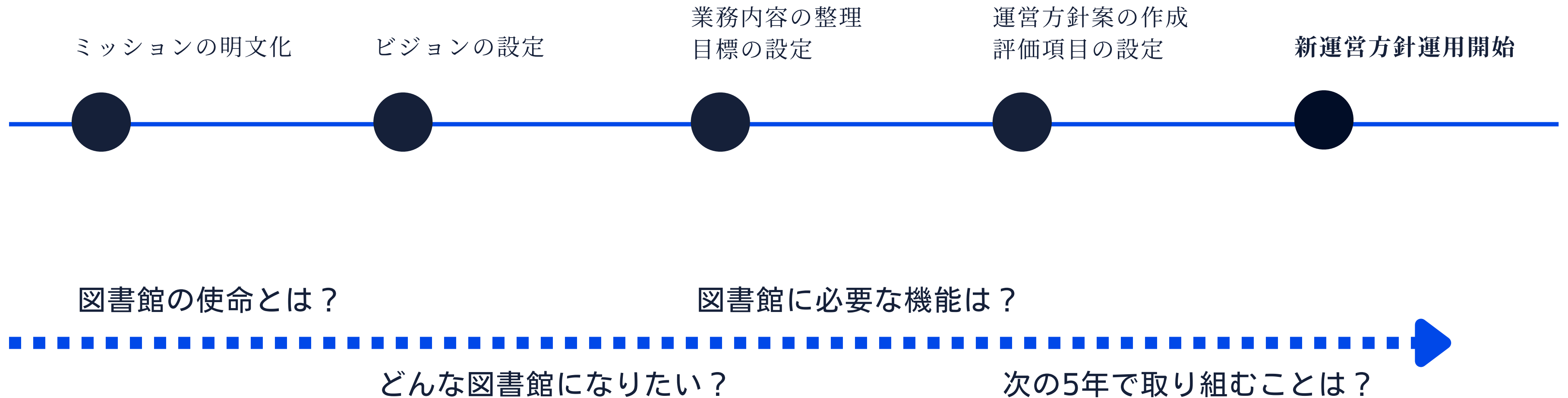


飛驒市図書館未来ミーティング2025とは

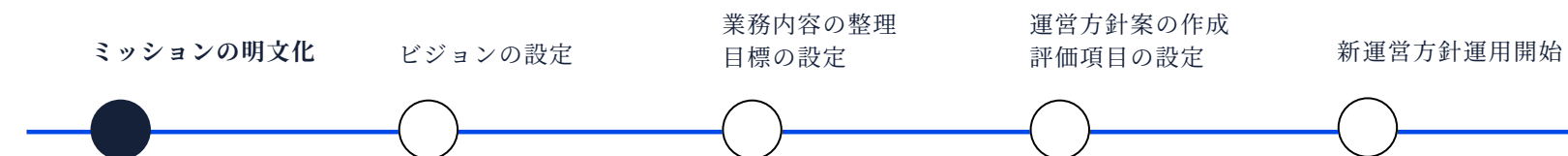
本を読むだけじゃない、図書館のあたらしい可能性を探るプロジェクトです。
図書館に関わりのあるみんなで、今ある図書館の魅力を見直し、これからやってみたいことや
さまざまな使い方を提案することで“あたらしい図書館”をリデザインします。
成果は「第3期飛驒市図書館運営方針」として、これから5年間の新たなビジョンとなります。



新・運営方針策定までの流れ



存在意義から機能を考える①

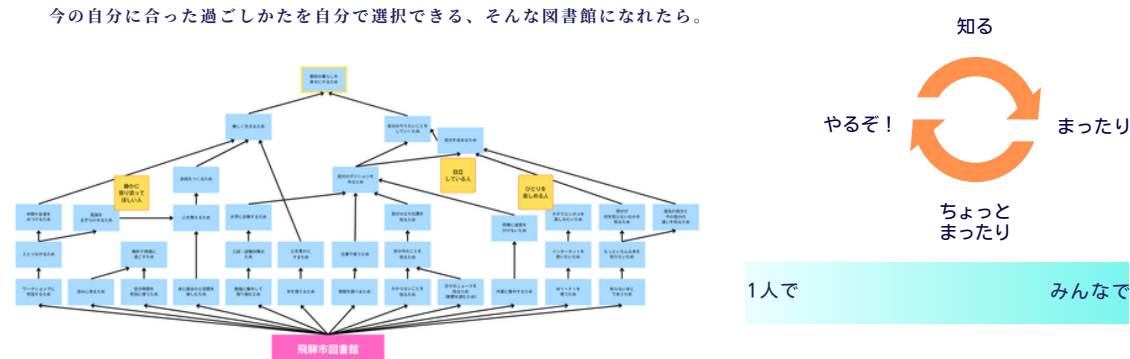


2025年11月の「図書館そだて会議」で導き出されたのは、
飛騨市図書館は「**普段の暮らしを幸せにするため**」に存在するということだった。
これをそのままミッションとすることにした。

飛騨市図書館の価値③ | 普段の暮らしを幸せにするため

普段の暮らしの幸せとは？

“タネ”から見えてきたのは「適度な距離感で人とのつながりを感じたい、作りたいと思っている」という思いだった。また、ひとりの人の中にも、前に向かって進む気持ちが強い時と、ゆっくりのんびりしたい時があり、大人数でわいわいしたいときも、1人になりたい瞬間もあることがわかった。
静と動。緩急。そのバランスをとることが、よりよく生きるために大切なのではないだろうか？
今の自分に合った過ごし方を自分で選択できる、そんな図書館になれば。



飛騨市図書館未来ミーティング2025 第3回 図書館そだて会議 | 2025/11/9

幸せとは？

ひとそれぞれ。比較対象は他人ではなく自分。
物質的な豊かさではない。
今日よりも、明日がより良い自分になれること。

ビジョン設定にむけた整理

なぜ（Why）

普段の暮らしを幸せにするため

だれが（Who）

地域とそこに住むひとりひとり

どこで（Where）

多様な活動の舞台の場

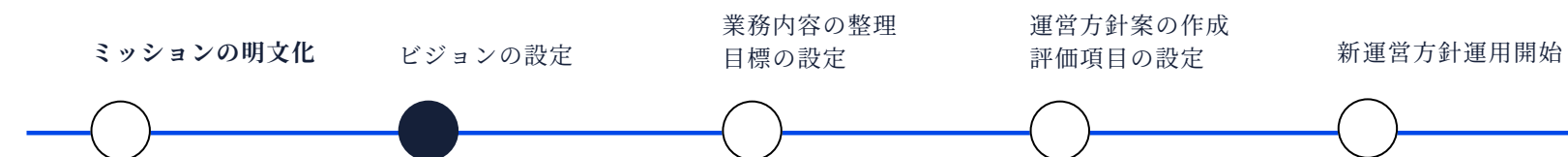
どのように（How）

人と情報を循環させる

なにを（What）

自分らしい成長と、より良い暮らしを支える

存在意義から機能を考える②



ミッション：普段のくらしを幸せに

「幸せ」とは、どんな状態か？

マイナス → ゼロ

困りごとの解消

1月WSで出た「第2の市役所」や
「ひだ万雑プラットフォーム」のイメージ。
暮らしの不安や困りごとを、情報と人でつなく。



地域とくらしを支えるハブ機能

ゼロ → プラス

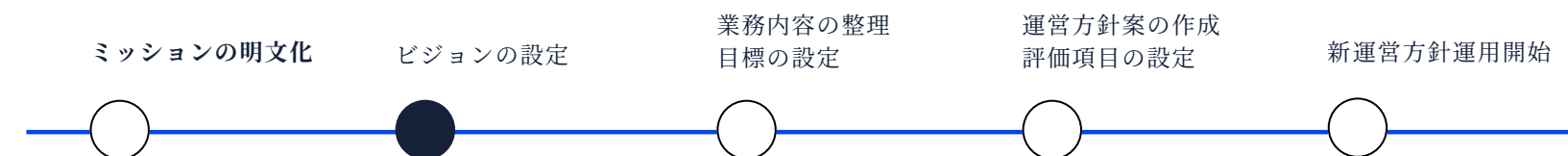
彩りと発見

9月タネまきWSのキーワード
「あったらちょっとおもしろい」のイメージ。
日々のくらしに小さな喜びと発見を加える。



あったらちょっとおもしろい

3つの機能（当初のビジョン案）



1

困りごとと支えをつなぐ
最初の窓口となること

不妊治療・更年期・介護など、市役所窓口では相談しづらいことも含め、くらしの困りごとに対し情報・人・サービスをつなぐハブ機能。「第2の市役所」として。

2

日々のくらしに彩りと発見を
もたらすきっかけを提供すること

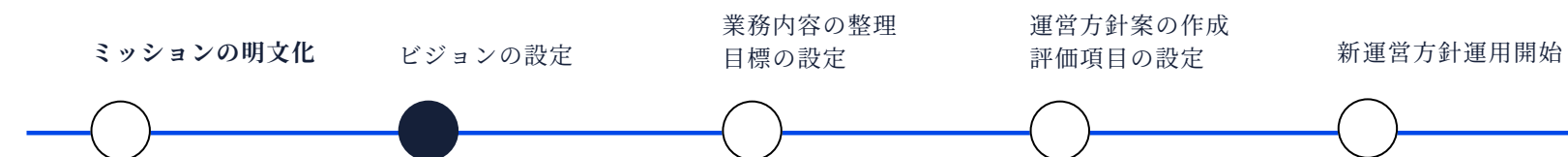
「あったらちょっとおもしろい」を基準に、ワクワクや好奇心を刺激するイベント・体験・情報に出会える場をつくる。

3

誰でも心地よい過ごし方を
自分で選べる多様な居場所であること

1人でも、みんなでも。ゆったりでも、やるぞ！でも。その時々気分やニーズに合った過ごし方を自分で選べる場所。

3つ目をバリューに変える



1. 困りごとと支えをつなぐ

2. 彩りと発見をもたらす

3. 心地よい過ごし方を選ぶ



「3. 心地よい過ごし方」は、市民のニーズに応える機能というより、図書館がそもそも備えるべき性質・姿勢に近い。WSを重ねる中で他の2本と並列に目標として置くには構造的な違和感があるという確信が生まれた。外部有識者からも「目標ではなく、2つの目標のベースとなる考え方では？」という指摘を受けた。



ビジョン1
困りごとと支えをつなぐ

ビジョン2
彩りと発見をもたらす

バリュー（基本姿勢）

- ・だれもがここにいられる
- ・役に立って、楽しい
- ・ゆるやかなつながりと循環
- ・小さく試し、育てる

業務内容の整理① | 機能に分解

ミッションの明文化

ビジョンの設定

業務内容の整理
目標の設定

運営方針案の作成
評価項目の設定

新運営方針運用開始

ミッションを図書館で必要な機能に分解していく。

Boxで拡大して見る



気付き

- 読書推進といっても、実用書の読書と娯楽の読書は機能が違う
- 「広報」機能がどこに入るのかわからない
- 「彩り」とは？⇒人それぞれ
(推し、趣味、生きがい、成長できる、心の余裕、学び、楽しみ・・・)
- 困り事と支えに対応するタネが少ない？
⇒ここを可視化させる（知ってもらう／自覚させる）機能がもっと必要？
⇒それこそが「ひだ万雑プラットフォーム」なのか！

ミッションの明文化 ビジョンの設定 **業務内容の整理
目標の設定** 運営方針案の作成
評価項目の設定 新運営方針運用開始

気付き

- ・ タネは「彩り」の下にほぼ分類された。キーメッセージ「あったらちょっとおもしろい」はここに相当？
- ・ 「困りごと」のタネはやはり少ない。ここを可視化させ、ひだ万雑プラットフォームへつなぎたい
- ・ 綺麗な椅子や机が用意されていることも図書館の大事な価値だった。ちゃんと掃除している私たちえらい。
- ・ 広報はどの機能におさまる？
⇒ 基幹的業務なのかも

業務内容の整理③ | 基幹的業務・優先順位

ビジョンの設定

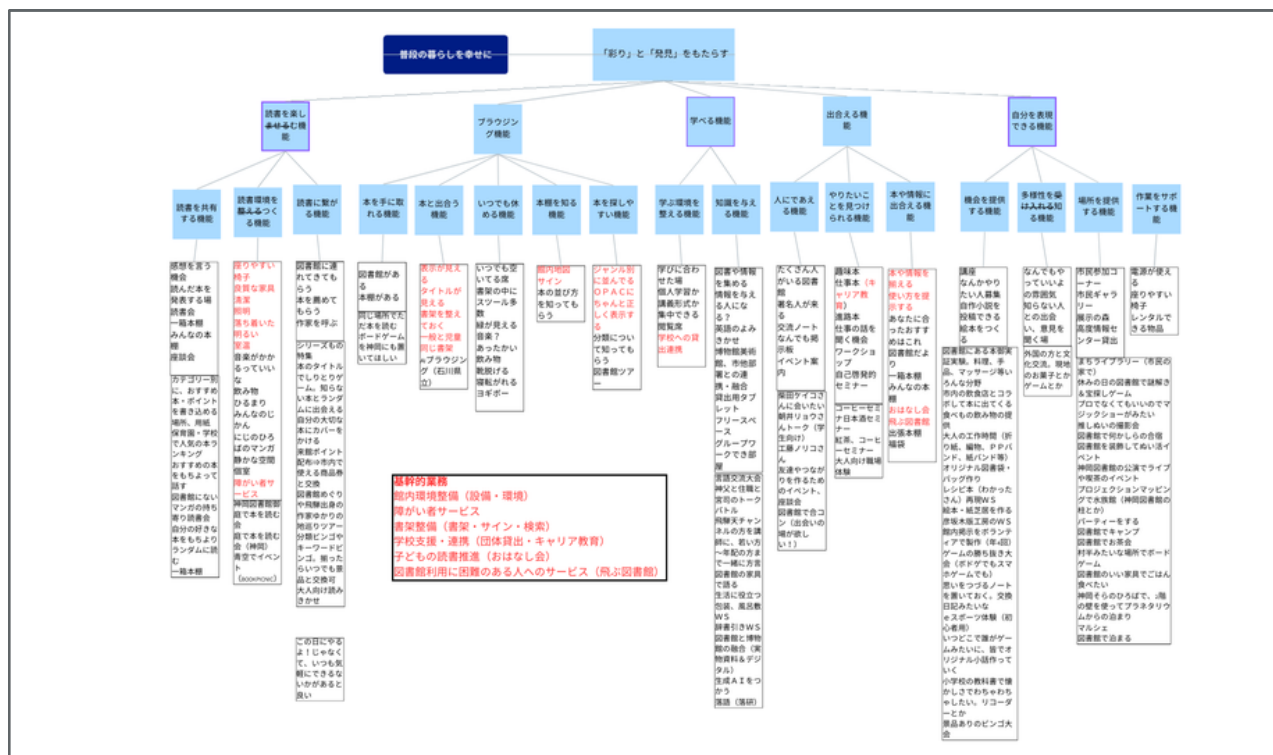
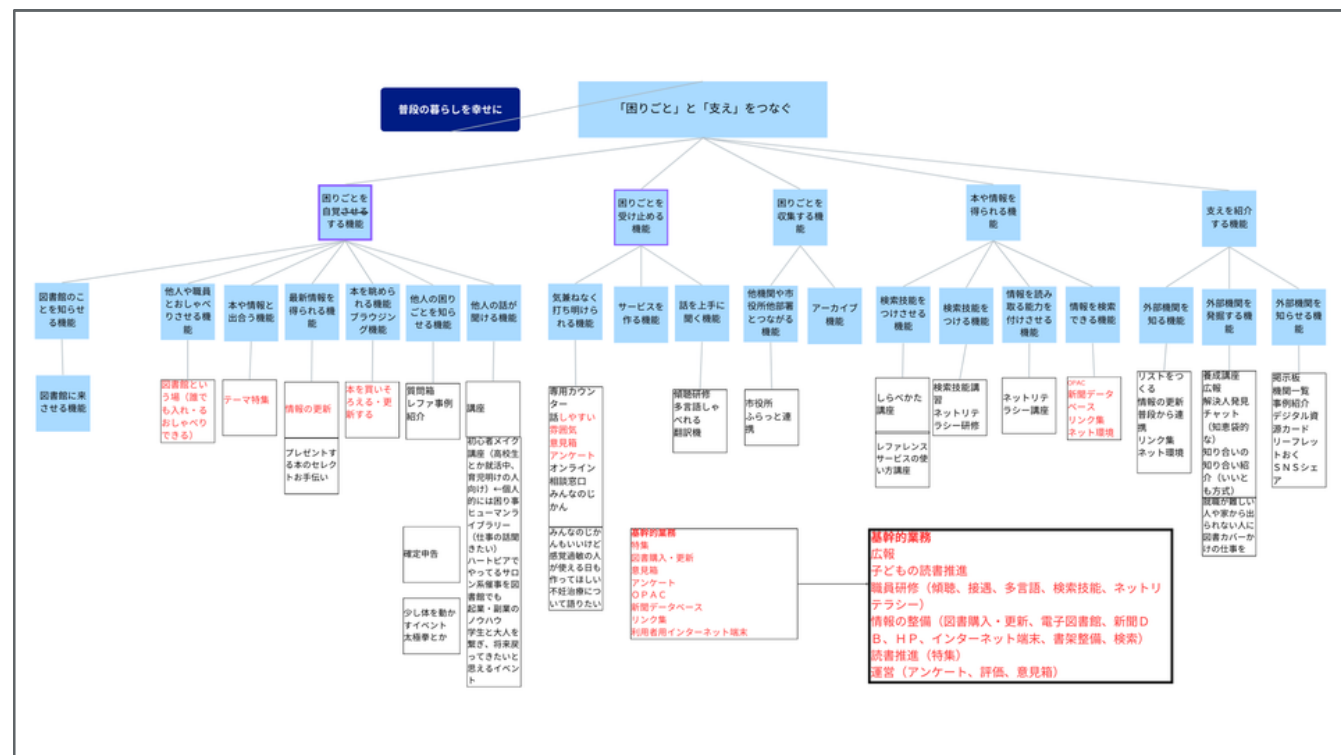
業務内容の整理
目標の設定

運営方針案の作成
評価項目の設定

新運営方針運用開始

タネを、「日常的な基幹業務」と「それ以外」に区別する。それ以外のものは優先順位をつけ、次期運営方針でどの範囲を実行にうつすのかを選定する。

Boxで拡大して見る



- ・子どもの読書推進は、
基幹的業務である
- ・広報も、すべての業務の入口となる
基幹的業務である
- ・環境を整えること、清潔であること
など、意識していない業務も基幹的
業務として重要なことだった
- ・職員研修など、人材を育てていくこ
とも運営の下支えになる

業務内容の整理④ | ビジョン達成のために必要な機能

業務内容の整理
目標の設定

運営方針案の作成
評価項目の設定

新運営方針運用開始

ビジョンを機能に分解していった結果、多くの図書館機能は次の5点ずつに分けられた。
この機能に沿った業務を、施策として実行していくことになる。

くらしの困りごとと支えをつなぐ、
最初の窓口になること

- ① 困りごとを自覚させる機能
- ② 困りごとを受け止める機能
- ③ 困りごとを収集する機能
- ④ 情報につなぐ機能
- ⑤ 支えにつなぐ機能

日々のくらしに彩りと発見をもたらす
きっかけを提供すること

- ① 読書を楽しむ機能
- ② ブラウジング（本棚を眺め歩く）機能
- ③ 学べる機能
- ④ 本や人に出合える機能
- ⑤ 自分を表現する機能

ミッション・ビジョン実現のための目標設定

業務内容の整理
目標の設定

運営方針案の作成
評価項目の設定

新運営方針運用開始

次期運営方針で、特に優先して取り組むべき柱を「重点目標」として設定する。

- ① 誰が必要なときに、情報と学びにつながる基盤づくり
- ② 子どもから大人まで、学びと読書が日常に根づく環境づくり
- ③ 多様な人が、心地よく利用できる図書館づくり
- ④ 変化に応じて改善し続ける、持続可能な図書館運営

ビジョン1
くらしの困りごとと支えをつなぐ、
最初の窓口になること

ビジョン2
日々のくらしに彩りと発見をもたらす
きっかけを提供すること

バリュー（基本姿勢）

- ・だれもがここにいられる
- ・役に立って、楽しい
- ・ゆるやかなつながりと循環
- ・小さく試し、育てる

ミッション：普段のくらしを幸せに

私たちの使命（ミッション／MISSION）

普段のくらしを幸せに

飛騨市図書館は、人と情報を循環させ、多様な活動の舞台となることで、地域とそこに住むひとりひとりの自分らしい成長と、より良いくらしを支えます。

目指す将来像（ビジョン／VISION）

- ・くらしの困りごとと支えをつなぐ、最初の窓口になること
- ・日々のくらしに彩りと発見をもたらすきっかけを提供すること

第3期 飛騨市図書館運営方針（2026-2030） 重点目標

- | | |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 誰もが必要なときに、情報と学びにつながる基盤づくり | 3 多様な人が、心地よく利用できる図書館づくり |
| 2 子どもから大人まで、学びと読書が日常に根づく環境づくり | 4 変化に応じて改善し続ける、持続可能な図書館運営 |